

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私は、あの時の感覚を忘れません。いや、
 忘れないようにしています。
 私が東日本大震災を経験したのは、1年生の
 時。学校の外で下校しようとしていました。
 いつもの時間が流れています。でもそのいつ
 もの時間を止めにしたのは、地震でした。今
 までも感じたことのない、大きなゆれでした。
 とてもおそろしかったです。思い出すと、ゾ
 ヲとします。会津は、大きな被害はなく安心
 しました。でも、悲しいこともありました。
 私の育った町は、津波にのみならず、原発事
 故など、大きな被害が出ました。
 ま、他にも、とても大きな被害が出た地
 域はたくさんあります。だから、まずは、そ
 の被害が出てしまった人達を元気づけるため
 に、物の片付けより先に、心を取りもどして
 あげる。そのために、復興ライブや、明る
 くなることを進めていくと良いと思います。
 何事も明るい心を持つことが、明るい未来へ
 の第一歩だと私は思います。

(20文字×20行)

氏名 田代 彩乃 年齢 14 歳 職業・学校名 鎌石町立鎌石中学校

学	校	か	ら	下	校	じ	を	自	宅	に	入	ら	う	と	し	た	と	き
地	面	が	激	し	く	揺	れ	、	私	は	家	が	ら	離	れ	ま	し	た
人	で	周	り	の	建	物	や	自	分	の	家	が	壊	れ	て	い	く	の
を	見	て	い	る	の	は	本	当	に	恐	怖	で	不	安	で	し	た	。
あ	か	し	ば	早	く	し	て	家	族	や	近	所	の	方	が	帰	っ	て
た	と	き	は	と	も	安	心	し	た	気	持	ち	戻	り	ま	し	た	。
私	が	通	っ	て	い	た	小	学	校	も	壊	れ	て	しま	い	、	近	
く	の	小	学	校	に	通	う	こ	と	に	な	っ	た	と	き	も	と	と
も	不	便	な	生	活	が	ら	た	が	、	サ	レ	テ	が	助	け	あ	っ
楽	し	い	学	校	生	活	を	送	る	こ	と	が	で	き	た	と	思	っ
て	い	ま	あ	。														
私	は	震	災	の	体	験	か	ら	周	り	の	人	と	の	絆	を	感	い
ま	し	た	。	家	族	や	友	達	、	近	所	の	人	な	ど	の	人	た
と	支	え	合	い	助	け	合	っ	せ	ぎ	た	か	ら	今	の	生	活	が
あ	る	の	だ	と	思	い	ま	あ	。	今	で	は	小	学	校	も	新	校
な	り	、	町	全	体	も	復	旧	、	復	興	事	業	に	サ	レ	テ	取
り	組	ん	で	い	ま	あ	。	こ	れ	か	ら	は	震	災	で	の	様	々
体	験	や	、	人	と	人	と	の	絆	の	大	切	さ	を	忘	れ	ない	と
周	り	の	人	と	支	え	合	っ	て	生	活	し	て	い	き	たい	と	思
い	ま	あ	。															

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 牧野 祐太

年齢 14 歳

職業・学校名 坊間中学校

料はあの日、小学校4年生でした。まだ幼
 いころの料は状況をまったく理解しないうま
 りな人でした。道路がたわみ物資が届か
 ない状態で、食べ物も全然なくみんなを分け
 合って食べる状況でした。水も出ない、
 食料もない、電気もつかない、今まで普通に
 使えていたものが使えなくなっていました。
 地震だけではなく、福島第一原発の事故で、
 放射線が大量に放出してしまい近くの人々た
 ちは、自分が今まで生活してきたふるさとに
 住めなくなってしまうまい。たくさん人の
 老若男女たちが自分の生まれ育った場所に住
 めないというのはいやと思います。小学
 校では、運動会も中止、外で遊ぶことにも
 時間制限がついてきて、思いっきり遊ぶこと
 はできませんでした。今では、津波で破壊さ
 れた物も以前よりもきれいになったが、昔の
 人にとっては、大切なものだったのを地震と
 いうのは、人の思いも破壊してしまう恐れ
 があるのだと知ることをしました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 藤野 真希

年齢 15 歳

職業・学校名 いわき市立好間中学校

3月11日、あの日は私にと、とても忘れ
 られない出来事となりました。あの日、私は
 まだ小学4年生でした。私は、担任の先生に
 友達と2人で怒られている時に、あの大地震
 がやってきました。私と友達はおわてて机の
 下に隠れました。その時の私の気持ちはずい
 ぶん、ぱりてした。そこに担任の先生がきて
 校庭に向かいました。その時、私の目には同
 級生が泣いている姿が映りました。そして、
 私たちは、家族のむかえを待っていました。
 家族と出会えて涙が止まらなくなった人かたくさん
 いました。私も家族と二本松の方へ避難しま
 した。その後、パン、飲み物を買に行きま
 した。そこには、沢山の人がいました。家族
 と話して11子と私まで、涙が止まらなくなり
 ました。友達との連絡方法がなく、とても友
 達の事が心配になりました。
 でも、この体験を通して家族の大切さを身
 をもつて知らされました。このことを忘れず、
 家族を大切にしていきたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大平 龍彦

年齢 15 歳

職業

学校名 女子間中学校

僕は、震災の時小学五年生でした。あの日僕は、学校に友達と、二人でいました。帰ろうとしたその時、突然地震が起きました。最初は、左足のいしんだろ、とためてましたが、いざ下に地震は、大きくなって行き、不安になってきました。少したつと、地震は、おさまり、外に友達と出ました。するとそこには、多数の人がいました。中には、泣いている子供もいました。僕は、教室にずっとセルを忘れましたが、大人の人を取りに行くと来てくれました。あんな恐ろしい体験は、初めてでした。家に帰ると、テレビが壊れてて、大変な状態でした。そして翌日、テレビでニュースを見ました。それより大勢の人が命を落としたことが、わかりました。更に、源子発電所が大変なことにあって僕は、この人を奈義なくさせました。数日後、帰って来て久しぶりに友達の顔を見ました。

今回の地震は、とにかく大変でした。もう起らないといいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鶴田 伶奈 年齢 15歳 職業・学校名 いわて県立好間中学校

私は、東日本大震災の時に小学校4年生でした。
 地震は初めてで、とても怖かったです。家の中も外も、
 地震が来るたびに不安でいっぱいでした。また、テレビで流れる映像を見て、
 自分と違う場所でも同じようなことが起きていることに気づきました。
 毎日お風呂に入れたこと、おかげで服が濡れなくてよかったことに感謝しています。
 私は、東日本大震災を経験して自分があんなに
 辛い思いをしたことがありません。生活が出来なくなり、
 涙が止まらなくて、とても辛い経験をしたこと、
 思っています。また、たくさんの方々が復興に
 協力してくれて、人の暖かさに気づかされました。
 私は、これからも、自分ができる範囲で、
 復興のために協力したいと思います。
 と思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 木田 咲来 年齢 14歳 職業・学校名 好間中学校

震災前私は、原発事故があった大熊町に住
 んでいました。3月11日の夜、原発が爆発し
 ました。私達は避難しました。また、原発
 が爆発して、避難するとは思っていません。た
 めにとてもびっくりした。それからどうな
 るのが不安な。初めに、行っただけ避難所での
 惣飯は小さくて、冷たい。ご飯1個とウイナ
 ーでした。とてもありがたかったです。その
 後は何回か違う避難所に行きました。どの非
 難所の入も私に優しく接してくれました。
 たくさんさんのボランティアさんたちも来てくれて
 私は、とても勇気をもらいました。とても感謝
 しています。

私は、震災と原発事故を経験して、食べ物
 や物の大切さなども分かりました。これか
 らも、震災と原発事故のことを忘れない。当
 り前のことを、当たり前だと思わないように生
 活していきたいと思っています。それと、支
 援してくださった人やボランティアさんたちには
 感謝しています。ありがとうございました。

「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

氏名 堀 理斗

年齢 14 歳

職業・学校名 好間中学校

私はあの日、小学校五年生でした。私は、
 小学校の下校中でした。三時四十六分、今まで
 以上に体験したことのないような大地震でした。
 私は、その場で一人で立つことができま
 せんでした。学校の中では、ガラスの割れさ
 ような音が聞こえました。しばらくすると、祖母
 が心配して学校まで来てくれました。私はそ
 の時、とても安心しました。安心して祖母と
 一緒に帰ろうとした時も、何度も何度も地震
 がなりました。家に帰ると、皿やコップが割
 れていたり、物が倒れていました。私はその
 時、初めて地震の怖さを知りました。また、
 17方になると両親が帰ってきました。夜にな
 るとテレビをつけると、そこには信じられない
 映像がありました。津波で家や車が流されて
 いる映像です。その夜、私は不安で眠れま
 せんでした。また、その日の二、三日後には原
 発が次々と爆発していく映像を見て、さらに
 不安が増しました。でも、こうして今安心し
 て暮らしているのは、親のおかげだと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 茂木 悠佳

年齢 15 歳

職業・学校名

いわき市立女子間中学校

私	は	、	震	災	の	直	後	と	主	友人	と	下	帰	し	て	い	
ま	し	た	。	その	直	後	最	初	に	地	震	に	受	け	ら	れた	の
私	の	友	人	が	、	近	く	に	あ	っ	た	家	の	屋	根	の	か
が	、	落	ち	て	ま	じ	に	、	そ	の	後	、	地	震	が	と	受
け	ま	し	た	。	その	後	、	私	は	友	人	と	急	い	で	帰	り
ま	し	た	。	家	に	帰	る	と	、	私	の	家	に	食	器	が	何
れ	か	が	割	れ	た	。	私	は	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の
痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の	痛	み	が	、	心	の

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 北川 匠人 年齢 15 歳 職業・学校名 いわき市立好間中学校

僕は、当時まち小学校4年生でした。今でもあの頃の子とは忘れられません。
 僕は、その時スイングスクールに行くため親に学校へ迎えに来てもらって行きました。
 僕は車に乗りに乗りました。しかし突然「携帯電話の緊急地震速報の音が鳴り響きました」
 僕は、慌てて車の外へ出ました。すると、ゆりゆり地面が横に揺れはじめました。揺れはだんだん大きくなっていきまわした。僕はその時、とても慌てていたと思います。揺れがおさると僕は親といっしょにおばあち、この家に迎えました。家に着くと余震がきました。とても恐怖かったです。その日は恐くて寝れませんでした。しばらくく日がたつと、僕は市役所に水ももらいたい、たりしました。しばらくの生活は大変でした。家族は全員無事でした。ニュースでものすごい数の人が亡くなると聞きます。地震で亡くなった人を見つけておいてくれる人もいます。僕は、早く行方不明の人を探してあげたいと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への思い」応募用紙

氏名 鈴木結女 年齢 15歳 職業・学校名 いはま市立好間中学校

私は、当時小学4年生でした。本校しご家
 上り、夜時に地震が来ました。その時、私は
 大人が「下の階に降りろ」と思、2階から
 降りて母と兄も帰って来るととても安心した
 のと覚えています。それから、私達は一階
 の下に入り地震がおさまると、2階ま
 した。その水でも地震は、こうに上まらな
 私はとても怖くて言葉も出ませんでした。あ
 の時の怖さは今でも忘れません。私の祖父と
 祖母の家は海に近いので津波が押し寄せて来ま
 した。祖父と祖母がとて心配がしたから、助
 か、とてとても安心しました。それから私は
 もう二度とこんな体験をしたくないと思いま
 した。

この地震で何人も命を失った。私も
 来りまじたい。こんな悲しいことばもう二度と
 起きないことを私は望んでいます。この経
 験から命の大切さをより深く感じました。一
 日でも早く早い復興を心から願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 中村 美友

年齢 15 歳

職業・学校名 いわき市立母間中学校

東日本大震災の日。私は小学校4年生でした。
 ちょうど下校の時間でした。校門を出ると
 聞いた時、足もとからゆれを感じました。
 外でしたが、十分ゆかるといふ大きなゆれでした。
 先生方の「伏せなさい」という声がかきこえ、
 みんな頭をかかえて伏せました。まわりからは
 悲鳴や泣き声がかきこえました。ゆれがおさまった後、
 校庭のまん中に集まり、親が来るのを待っていました。
 待っている時間がとても長く感じ、とても心ほろびました。
 親が迎えに来て、家に帰ると、家の中のものがぐちゃぐちゃに散らばっていました。
 家の中の物もこわれたところばかりです。
 今ではほとんどおぼろけになっています。
 けれども、人の心の傷は今も残っています。
 家族を失った人、友達を失った人、
 古郷を失った人。たくさんの方が、
 いまだに心に深い傷を負っています。
 あの日のことを忘れたいけれど、つらい思いをした人々の
 いやな記憶はいつか消えてしまえばいいなと思います。

氏名 磯邊 玲奈 年齢 14 歳 職業・学校名 好間中学校

あの日は小学四年生でした。その時わたしは何か起ると、たのかわかりませんでした。私たちは放射線だけですが手止めたが、ほかの地域には津波がおそってきて、家や家族を失って自分の命を失われた方々もいます。私は福島第一原発が爆発したため、埼玉県へ避難しました。しかし食料もなく大変な生活を送っていました。テレビなどを見ていると津波の事などしかやることがあらず、私はとても不安になりました。私のおばあさまは浪江にいます。たぬめどうしているのか不安になりますが連絡もとれず本当に不安になりました。しばらく日にちたつと連絡がとれるようになってたので電話したところ元気でした。私は安心しました。

もうこのような事はないように私になにかできることは全力をうけたいと思います。そしてもう二度このふうなことをないようにするためには一日一日を楽しく笑顔で過ごすということが大切だと思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 遠藤 琉夏

年齢 14 歳

職業・学校名 いわき市立好間中学校

私は小学4年生ですが、毎週、体育館で陸上大会の練習をしています。そして、この体験談を書いたのは、3月11日の東日本大震災から1年経ちました。この後、福島第一原発が爆発したことを知り、私の家族も東北の親戚の家で避難しました。テレビで震災に関するニュースを見ながら、正直、思いついたことがありませんでした。しかし、そのニュースは他の国々や地域から長くはたしての支援が送られてきていることを知り、とても嬉しく、私も前向きな気持ちでいられるようになりました。震災は、大切なものを失ってしまったことがたくさんあります。しかし、失ったばかりではなく、学んだこともたくさんあります。東日本大震災を学ばせたいと生かす、一日も早く復興のため、自分ができることに取り組みたいと思います。そして、震災は、今もお苦しんでいる人々が笑顔で毎日を過ごせるように、頑張ります。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 酒井 李理香 年齢 15歳 職業・学校名 いぬま市立好間中学校

私は小学校4年生だ。たあの頃に東日本大震災を体験。こしまりました。ちよと学校が終あり、下校をしてり時でした。友達4人でりつもうほうに楽しく帰てりました。急に空な感かして大き揺れが始ま。たのてす。4年生だ、左私運は落着いてりかす。外はいたとらうにもあり、無意識に自分、家に向かて走りました。でも真、すく進めまらんだした。そただけ大き揺れ、たのてす。家に着り玄関を開けたが、目を疑うまうな光景かありました。灯油かこけかてびとま出に、冷蔵庫はさかさまの信りりれまらんだした。テレビには津波、原電のニュース、いかりで、すく不安で怖か、たてす。たくさんの人が命を落と、たくさんの家族を失、た人たがかりて、心か苦しくなる日かでした。最近では明か復興してまらり存元、明は戻てまりました。こ。苦しく、種り思ひた復興たつたがてままたりてす。体験した事運たしかでまなり復興かあると思りたり。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 黒川 蒼太

年齢 15歳

職業・学校名

いわき市43間中学校

僕は、当時まだ小学4年生でした。今でも
 あのころの記憶とは別人のように覚えていません。
 地震の起きる前、僕はちょうど下校の時間で
 同い年の友達を待っていました。しかし、その
 時、今までに感じたことのないゆれがきま
 りました。最初僕は何が起ったのかわかりませ
 んでした。そこに先生の「校庭に集まれ」と
 いうかけ声で、みんな必死に校庭に向かって
 走りました。校庭でしゃがんで改めてまわり
 を見てみると、電柱がおかしな感じがしなく
 いう響いてゆれ、恐怖を泣いてしまっている
 人がいたり、泣きをはげましている人がいま
 した。僕は、その時はあまりこわい感じは感
 じまわりの人をはげましたりしてしました。
 地震が一時おさまったからは無事に家に帰る
 ことができました。
 小学校で経験したこの出来事を忘れないこ
 れからある大切なことに負けないように
 がんばりたいと思います。福島県の復興に
 も何か役に立とうと思います。

(20文字×20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 優生 年齢 14 歳 職業・学校名 いわて市立好間中学校

私は、東日本大震災のおこった2011年3
 月11日小学四年生でした。その時、私は校庭
 にいました。そして班のみんなが集まり、たの
 び帰ろうとしていました。しかし、その日地
 震がおきました。すごい揺れでみんながびく
 くりして泣いている子もいました。先生方も
 二んが下さな地震は初の大と言っていました
 た。この東日本大震災は大きな被害も大き
 くなりました。地震の影響による津波の大勢の人
 が亡くなり大勢の人が悲しくなりました。そして
 福島に原子力発電所が爆発し、多くの人がた
 が避難しました。私の学校も転校してしま
 う予定もしていました。しかし今は、少しづつ
 国が復興していき、とると私は思っています。初
 めは福島にういて、ひどい事を言う人がいた
 けれど今は減っています。と思っています。今の
 二の三、と状況は良くなるように私
 も努力したいです。また、この体験を
 前と忘れず、未来の子供も大に伝え
 いくべきだと私は思っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名山田 優多 年齢 15 歳 職業・学校名 いわき市立好間中学校

私は東日本大震災の日、小学三年生でした。
 その日は学童にいました。家に帰ると、冷蔵庫
 庫の中や、食器だなや本だななどがぐらぐら
 ちびちびと、していました。電気や水道が止ま
 りました。夜は真暗で、水も火もないので、
 とても大変でした。そして、祖母の家に避難
 しました。水道は止まり、電気が通
 じ通じ、していました。今まで、電気や水が出な
 い生活をしたことがなかったのに、その大変さ
 は知らず、たけな、大震災を体験して、その
 大切さが身にしみるように分かりました。こ
 れからは、水や電気を大切にしようと思いま
 した。今でも多くの人が家に帰っていません。
 た川、故郷を壊れてしまっています。その
 人たちのためにも、若い人が復興の後押しを
 してあげたらいいと思います。みんながまた
 故郷をくらしようとしてほしいです。そ
 して今では震災を体験していませんが、いま
 いる人たちのためにも、若い人たちが震災
 の様子を伝えようと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 伊藤夏花 年齢 15 歳 職業・学校名 いわき市立好間中学校

私は、東日本大震災のため、2011年3
 月11日小学4年生でした。地震が起きた2時
 46分学校から帰宅してしていると気づきました。地
 震が起きたとき最初は何が起こったかわからな
 かった。先生に校庭に集ま
 ると言われ行きました。こんなに大きな地震
 は初めてでした。その夜父が帰
 ってきたときと気づきました。予震が続
 きとても不安でした。次の日朝帰ってきたの
 が安心しました。しかし、その後原子力発電
 が爆発したことを知り避難しました。避難中
 もいつ帰れるかわからず不安でした。地震
 や津波、原子力発電所の爆発で命を落とすこ
 とが多かったです。人はたくさんいます。災害で家族を
 なくす人もたくさんいます。私は
 生き残っただけで幸せな人だと思います。
 また、完全に復興したい地域があるのを
 早く復興してほしいです。この東日本大震災
 を体験し、命の大切さを知りました。だから
 命を大切にしたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 蒲生 拓斗 年齢 15 歳 職業・学校名 いわき市立好間中学校

東日本大震災の時は、小学4年生の時でした。当時震災が来る前は楽しい7日を過ごしていました。帰る時に震災が来ました。みんな当時校庭にいたのでもう何が来る人もいなく大丈夫でしたが、周りを見ていると泣いている人がいたり体育館の中がボロボロだ。たりとものおごく不安になりました。そして、家に戻りテレビをつけると大変な事になっていて分かりその後不安になり寝れませんでした。本当に当時は、水もなく、食料不足になり大変でした。しかし、今思えば恐いとは思わなかった地震の事を注意していれば良かったのかなと思います。今でも見つめていていまま探している家庭もあります。でも、時間は止まらずに日々を過ごしています。今自分達で何か出来てそれをどのようにしていかか考えなければなりません。また、あの地震が来ても良いようにこの経験を心に思いながら前へ前へと一歩ずつ新しい生活を過ごしていきたいと思えました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

いばら

氏名 齊藤友貴

年齢 15 歳

職業・学校名 好間中学校

私は当時小学4年生でした。地震が起き
 たとき校舎を出た下校中でした。するといき
 なり狭く地面がゆれて、前にあった電柱がぐ
 らぐらとゆれていて驚きました。初めは本
 当にこゝろは現実なのかと思うほどでした。じ
 かし家に帰るでも数秒おきに一回は地震が
 きて、ふとテレビをつけたら、津波の様子が
 生中継でやっていました。そこで私は初めて、
 地震という言葉がとても恐ろしいことを知りま
 した。

私は福島県に住んでいません。福島県とい
 たら、やはり原子力発電所の問題が今もなお
 残っています。ニュースで取りあげられるこ
 とは、以前に比べると減っているけれど、福
 島県民としては、情報が知りたいです。実際
 に私たち家族は、一時的に知り合いの家へこ
 んでいました。

まだまだ、問題はありますが、一つ一つ
 人なでよくしていけるように、協力し合っ
 てほしいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 鈴木 楓人 年齢 14歳 職業・学校名 上野女子学院中学校

あの日は僕が10歳でした。3月11日の放課後
 僕は体育館で陸上大会の練習をしていました。
 大玉は揺れと同時に僕は驚きと大玉の不安に
 おそわれました。初めは体育館の舞台までの
 階段の下に隠れました。その後先生の指示の
 もと校庭へ逃げ、周りの自然の様子や生き物
 たちの様子を見て地震の怖さを知りました。
 家に帰りたけれどつらさでいざいざも
 地震の怖さでした。東日本大震災が起るまで
 地震というものに慣れていませんでした。
 けれど東日本大震災によって地震の
 怖さを知りました。ただ怖いのは地震だけで
 はありませんでした。津波です。たぐいしの
 人の命をうけた津波が1番怖く思いました。
 車や家を簡単に流していき映像を見て怖くて
 ともみえませんでした。今は普通に暮らして
 いますが、中には家族が亡くなった人もいます。
 被災者の影響で帰れない人もいます。その
 子や大人たちがいることを忘れずに自分に下
 さいたいことを探して命を大切にしたいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 玲次

年齢 15 歳

職業・学校名 いわき市立好間中学校

3月11日に東日本大震災がありました。その
 時ぼくは10歳、4年生でした。下校をしよう
 とした時、地震が起きました。みんなびく
 とりていて、悲鳴を上げていました。先生
 の呼びかけでみんなで校庭に集まりました。
 そこには泣いている人や励ましている人やい
 る人がいました。ぼくはまだ心がおち
 ついていませんでした。家族の人がむかえに
 来て家に帰るとあともおちつかなく、家の中
 はぐちゃぐちゃでした。テレビをつけると地
 震のニュースが、こいなく、本当に大
 変なことが起きたのだと感じました。ぼくは
 いとこにさそわれ、会津に行きました。体育
 館にひなんしてそこで過ごしました。悲しい
 ことが多かったけれどいいこともたくさんあ
 りました。新しい友達ができ、知らなかつた
 遊びも覚えました。でも楽しいことがあ
 った分、会津で知り会った人と別れるのは悲しか
 ったです。ぼくは今でもその人達が幸せであ
 ることを願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 矢島侑海

年齢 17歳

職業・学校名 矢島侑海

3月11日に東日本大震災があり、てまた4年
 性だった私はと、とても怖く思いをしました。
 放射線の影響でみんなはいるんばと、3にハ
 なるたのて、しばらくはみんなに会えなく
 な、てしまいました。私人家は津波は二なが
 ったのでしばらくして家に帰る事ができま
 した。そして学校のみんなも帰、てきて今ま
 までどがりの生活に慣れてるもどつていまし
 ました。しかし、そのあと何回か大きな地震が
 起、り安心はできません。て。でも今は、
 地震が来、ても全然怖くはないし、あせりも
 しません。だからもしまた大きな地震が起、
 ったとしてもおちろい、て行動がまると思いま
 す。そして今は私にちが、お年よりなど、の手助
 けをしていけるようにしたいです。今の福島
 はもう昔とはちが、い元気です。私の近くには
 かせ、住宅に住んでいる人がいます。もし本
 当に普通の生活がしたいというならいつま、
 てもとにた、てはいいんばと、思います。明
 子、い未来にはみんなの努力が必要、て、

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 小路 悠花 年齢 17 歳 職業・学校名 しずく幼稚園 中学校

私	は	あ	の	時	小	学	4	年	生	で	、	学	校	か	ら	帰	っ	て	
い	ま	し	た	。	あ	ん	な	に	大	き	い	地	震	を	体	験	し	た	の
は	生	ま	れ	て	は	じ	ぬ	て	で	、	何	が	お	こ	っ	た	の	か	分
か	ら	が	と	ま	ど	っ	て	い	ま	し	た	。	し	つ	も	の	信	号	機
も	何	も	の	い	て	い	は	く	、	し	つ	も	は	た	く	さ	ん	車	が
通	っ	て	い	る	道	路	も	全	て	の	車	が	止	ま	っ	て	い	ま	し
た	。	家	に	帰	る	と	お	皿	が	た	く	さ	ん	割	れ	て	い	た	り
し	ま	し	た	。	そ	の	後	私	達	家	族	は	い	と	こ	の	横	浜	に
避	難	し	、	不	安	な	恐	怖	を	抱	き	な	ら	な	過	ぎ	し	て	い
ま	し	た	。																
東	日	本	大	震	災	か	ら	約	4	年	9	か	月	か	た	り	ま	し	た
。	前	と	同	い	生	活	を	私	は	お	く	っ	て	い	ま	す	が	、	
今	も	避	難	し	た	り	し	て	い	る	人	は	い	ま	す	。	ま	っ	
と	大	切	な	人	を	な	く	し	た	り	、	と	も	恐	い	思	い	を	
し	た	大	が	い	ま	す	。	人	を	な	ぐ	れ	、	辛	い	思	い	や	悲
し	い	思	い	を	し	た	け	ど	、	み	ん	な	乗	り	越	え	く	く	れ
る	と	信	じ	い	ま	す	。	仮	設	住	宅	で	も	、	心	に	傷	を	
も	。	大	人	々	が	お	こ	し	て	も	ケ	ア	さ	れ	て	い	く	こ	と
を	願	い	ま	す	。	し	つ	な	に	お	こ	る	分	か	ら	な	い		
この	時	し	日	1	月	大	切	に	お	こ	し	て	い	ま	す	。			

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 浪邊尚記 年齢 15歳 職業・学校名 いち市立好間中学校

私は、当時小学四年生でした。その日の下校するときに地震が起きて、びっくりしました。地震で道路にへい（壁）が倒れていて、今までの地震と規模が違うことをそのとき理解しました。車に乗って家に着いたら、家の中の家具が倒れていて直すのが大変でした。テレビをみていると、海沿いの地域の映像が流れていて陸に海水が押し寄せた様子を見て、これか（これ）と思いました。休校だった学校に再び行くことができたのは、小学五年生のときの四月中旬ごろのことでした。学校が変わったところは、給食です。給食がパンになったりしました。

私は、この東日本大震災で、多くの人がなくなっていて、どれほどの地震だったのかを改めて理解しました。私の住む地域では、復興などということが分かりませんが、また家に帰れない人が、帰れるようになると思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 前田 菜奈 年齢 15歳 職業・学校名 いわき市立女子間中学校

あの日は、私にとって忘れられない日となりました。私は当時、大熊町に住んでいました。地震発症時、私は下校中で、家族が心配で、妹と走って帰りました。家付近くまで行くと家族と合流しました。しかし、その頃はもう電話が繋がらなくなっていたので、私は家族と「みんなが無事でありますように」と願いました。しかし、私たちがみんなの想いは届かず、祖母祖父、曾祖母は津波にのまれてなくなってしまいました。私は大切な人を失ったショックから、笑えなくなっていました。でもそれから、私はたくさんの方々の支援のおかげで元気に過ごせています。震災は私にとって辛い思い出ですが、震災によって出会った人々もたくさんいます。この震災の経験から私は、人との繋がりを大切に、震災を助けくれた方々への感謝の気持ちを伝えられる日がくれればいいと思います。福島県が早く復興し、たくさんの方々の笑顔にあふれる素晴らしい県になることを私は願っています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高木 輝帆

年齢 15 歳

職業・学校名 いわき市立女子間中学校

東日本大震災。一瞬にして私たちの全てを奪っていきました。家、家族との写真、そして命。多くの人々が命を落とし、多くの人々が涙を流しました。

あの日、まだ小学校四年生だった私は、何が起きているのか理解できませんでした。海の近くではなかつたのに津波の心配はありませんでした。大きなゆれや倒れ続けている塀を見て恐怖や不安が襲って来ました。「私たちにどうなるのだろうか。これからどう生活していけばいいのだろうか。」先の見えない未来。不安が幕りしました。

気がつけばもう五年の歳月が経ってしまいました。あの日のことは今も鮮明に覚えています。たくさんの方が亡くなり、今でもたくさんの方不明者がいます。まだまだ復興したとは言えないこの中で、亡くなった方々の分まで強く生きるとが残された人の使命だと思っています。私たちは今日を自分の未来に向かって一生懸命生きていくのです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 菊田結

年齢

12歳

職業・学校名

四倉小学校

私	は	東	日	本	大	震	災	の	時	に	は	、	1	年	生	で	し		
た	。	下	校	す	る	前	に	、	校	庭	で	、	ほ	か	の	ク	ラ	ス	の
子	た	ち	を	、	待	っ	て	い	る	時	に	、	ど	つ	出	ん	、	ど	し
ん	か	、	私	を	お	そ	、	こ	ま	ま	し	た	。	そ	の	後	、	全	生
徒	か	、	校	庭	に	あ	つ	ま	り	ま	し	た	。	私	は	、	こ	わ	く
こ	、	泣	い	て	、	し	ま	い	ま	し	た	。	そ	の	後	、	四	倉	高
校	に	、	ひ	な	ん	し	よ	う	と	し	ま	し	た	か	、	フ	な	み	の
世	い	で	、	と	お	れ	な	か	っ	た	の	こ	、	近	に	あ	っ	た	寺
に	し	ひ	な	ん	に	こ	、	お	母	さ	ん	か	む	か	え	に	く	る	ま
で	、	寺	に	い	ま	し	た	。	お	母	さ	ん	か	む	か	え	に	来	て
い	え	に	か	え	る	と	、	タ	ソ	ス	か	た	お	れ	た	り	、	私	の
お	気	に	入	り	の	お	ち	が	わ	ん	が	わ	れ	て	し	ま	っ	た	の
ひ	、	か	っ	か	り	し	て	い	ま	し	た	。							
こ	れ	か	ら	の	復	興	の	想	い	は	、	地	震	が	お	き	た		
と	し	て	も	、	あ	ま	り	か	わ	ら	な	い	こ	と	を	、	し	た	い
で	す	。	震	が	お	き	た	ら	、	た	し	か	に	あ	ぶ	な	い	け	ど
未	来	に	生	ま	れ	る	子	ど	も	に	、	四	倉	の	い	い	所	を	思
出	た	い	と	、	思	っ	た	の	ひ	、	あ	ま	り	か	わ	っ	て	ほ	し
い	と	は	、	私	は	、	思	い	ま	せ	ん	。							

匿名希望

私が、よちえんの年ちようの時のころでした。
 よちえんから帰って来て、テレビもつかなく
 くて、物がおちてしま、て、家のほとんどが
 、落ちてしまいました。じしんが、大きくて
 、私とおねさんとおにいさんとおばあさんと
 おじいさんは、いこのなごや市に向かいま
 した。すぐに行、てしま、たので、家でどれ
 くらいの物がわれたりしたのかは、わかりま
 せん。けれどモニューースで、じしんの注意な
 どが、い、ぱりありました。つなめで何人も
 の人がこの東日本大震災でなくな、てしま
 いました。なごやでは、じしんがなく、て、ひ、
 くりしました。電車も止ま、たりして、たぶ
 んみんなは、じしんこない、て、思、ていたか
 もしれません。いつ何が起きるのかわかりま
 せん。夜じしんがきて自分に何かがおち、てく
 るかもしれません。いつ自分が死んでしま
 うかは、分、かりませんが、そのことを私たちま
 のりこえてきたのだから、東日本大震災でな
 く、な、つ、た、ん、の、に、い、も、今、生、き、ほ、け、れ、ば、な、り、ま、せん。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

「助けてー!!」急におこった大地震。これが私の初めての体験。今後進むべき道は？
 私は今年大震災に関する歌を歌った。その曲は「群青」津波の被害ではなればなれに
 なった中学生たちがつくった歌。会えるはずが
 ないのに、またどこかで会おうという強い気持ち。
 私はその歌詞に心を打たれた。どんなに悲しくてもどこかに希望があることを教えてくれた。
 今後進むべき道はというと、私は、原発のことだ
 と思う。ま、とまた大震災は起こる。また原発が爆発したら、たま、たもんじゃない。
 風かどうではなく、風力、水力、太陽光などに切り変えたらいいと思う。
 いつまたおきるかわからない大地震。だから色々な工夫をして、同じことにならないように、同じ悲しみを味わわないように。
 復興に向けてがんばろう東日本、そして被害を受けた人達も！

氏名 大谷 水菜 年齢 9 歳 職業・学校名 白河市立白河第三小学校

しんざりから5年がたちました。わたしは
 4才でようちえんの年少でした。ひつは、そ
 の時のことは、はっきりおぼえていま(せ)ん。
 おぼえているのは、たあるを体にまいて、
 ばあちゃんにだ、こされてそとににけたこと
 だけ、おすけの型その時の話しをききました。
 すごく強いいしんが長くつづかいていた。い
 いちゃん、食器をおぼえてはあちゃん、
 ねだ、こしてにたてた。家の中は、白
 がわらでいて、テレビがたおれていて、
 ぐわ、ていた。だれもけがをしなかった。ぶ
 りでよかった。この日お父さんは、仕事でか
 え、てこなか、た水がこぼ、た人たちのた
 めに水をくはらていた、道路に水がたあ
 ているのを避けていた。寒いのは、おおいの
 は、こま、た人のためだけに、しょうけんめい
 だ、た、おち人のやくにたてるようになりたい。

ぼくは、東日本大しんさいをいまだどう思っているかを書きます。どう思っているかというといまでも家せついゅうたくでくらししている人がかおひそうだなと思いました。先生から聞いたことがあります。東日本だいしんさいの時大学生の人が人々をたすけにいて死んでしまった話。この話はぼくは、すごいなと思いました。ぼくはできるだけ早くふ、こうしてほいいと思、ています。またかせつ住たくで家族をま、っている人もひます。子ども、おとな、おじいさん、おばあさんなどたくさんま、っている人たちいるから、ぼくもなにかかになれることはないかなと思、ています。でも少しずつふ、こうしてひます。ぼくもまたこのような人々の家族をなくすつなみ、地しんかまたおこらないようにぼくはかになれることはないが、神様はまいてひます。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 大谷 泰基 年齢 11 歳 職業・学校名 白河市立白河第三小學校

ぼくはり才だ。た。ようち園から帰って、二
 階で、妹たちと、遊んでいゝ時だった。「早
 くおりに来なさい」ばあちゃんの声。何の事
 か分からなかつた。じしんだった。すぐに
 テーブルの下にかくれた。でも、とまらなく
 て、とても怖かった。お母さんがたすけに来
 て、外に出た。木につかまってじ。とじてた。
 周りを見ると、家がぐらぐらかれ、まとか、
 がたがたなつてゐた。ぼくにはばあちゃんか
 もういりいな。ばあちゃんに、病気で車イス
 だった。外にはばあちゃんの家の中でじ。とし
 ていた。きっとはあちゃんも外に出られなか
 ったんたろう。ぼくがあんなゆれの中じ。と
 待。ていたかと思うと、ぞつとする。い。つ。も
 木にいたら、車いすぐら。い。あせ。あせか。と思う。
 去年た。た。合。思い出したくも。い。け。れ。じ。
 家が。え。ろ。つ。て。みんなが笑顔でい。ら。れ。る。の
 が。い。番。か。今ぼくにはできるのは、福島には
 ほうじやのう。が。あ。る。け。れ。ど。い。い。所。だ。と。思。う。
 たい。

氏名 鈴木 慶

年齢 11 歳

職業・学校名 白河市立白河第三小学校

僕はあの日を決して忘れない。

「もうダメだ」弱々しい音が電話から聞こえた。壁は崩れ、かぎり屋根が崩れ落ち、赤紙がいっぱい貼ってあった。大好きなおばあちゃんの家がこわれてしまった。ひいおじいちゃんがかリカに渡ってお金を貯めて建てた家。戦争の時だっ。てひくともしなかつた家。それなのに……。くやしか。た。

家はいつも温かかった。走り回ったり、かくれんぼしたり、おじいちゃんとかいじゅうごっこをしたり。おばあちゃんの作る料理は世界一美味しかった。

二年前残せる時は残してリフォームをした。でもやっぱり前の家のほうがいい。だってそこには僕の思い出がいっぱいつまっているから。「前を見なくちゃな、命があっただけでも良かった。」おじいちゃんは言った。僕はちよびり元気が出てきた。家族皆が元気で暮らしている。それがどんなに幸せなことかずっと気づいた気がした。僕はこれから生きていく。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 網藤みづき 年齢 11 歳 職業 学校名 白河市立白河第三小学校

「また、来れてよかった。」5回目の北海道に
 ついた時、そう思いました。

私は、小学3年生から福島キッズに参加し
 ました。外でキャンプをしたり、畑から野菜
 を採って食べたり、川遊びをしたり、漁師さ
 んがと、たホタテを焼いて食べたり、牧場で
 馬やヤギの世話をしたり、福島では、体験で
 きないことをたくさん体験させてもらいまし
 た。

現在私は5年生になり、福島キッズは、解
 散となりました。さみしい気持ちもありまし
 たが、感謝の気持ちでいっぱいです。

北海道で私たちを受け入れてくれた、牧場
 や地いきのみなさん、私たちのお世話をし
 てくれたボランティアのみなさんとふれ合い、
 教えてもらったことを生かしたいと思います。

それは、しょう来「いっゆう医」になりたい
 という夢を見つけたからです。

あたたかくむかえ入れてくれたみなさんに
 感謝しています。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

私加東自本大震災の時、家族みんな
 オンで買い物しよとエレベーターに乗
 て、お母さんの靴が「ガーガー」とり
 ってみんな「なくなつた？」と思、て、エレ
 ベーターからおりた時に地震がおきて、しゃ
 べりながら上の壁がおちきり、おばあちゃん
 と非常口から逃げ、私の家族は、みんな大
 丈夫でした。そして、家に帰る途中にコロ
 ビアという会社の崖からくづれて、くり
 しました。そして、家に帰、て、見た目は大
 丈夫だ、たのびすか、中に入、たら、1ヤカ
 横に回、て、すこくジョジョでした。そ
 れからは、おばあちゃん、くさすことな
 ない、て、家外たうまで、おばあちゃんに
 ました。びすか、家、て、猫の「ま
 か」と言、猫外地震の時、なくな、てしま、
 たのびす。私とお母さんは、か、とぞかきさ
 かして、ました。そして、そのそか、箱の
 なかに入、て、ふえ、て私達の、とき、こ
 たのびす。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 網藤 涼佳 年齢 10歳 職業・学校名 白河市立白河第三小學校

「放しヤ繚を心配しないで、たくさん食べ
てね。」

ある日、北海道から、ダンボールいっぱいに
つまった、じゃがいもが送られてきました。
福島キッズに参加した民泊したお家からでし
た。私はとても嬉しか、たです。手紙を讀ん
でお母さんは泣いていました。

放しヤ繚は、目には見えないうし、何が悪い
か分からなかつたけど、私達の体や心を心配
してくれる、たくさんの人達と出会いました。

そして、木や葉っぱ、土や水にふれると、
「気持ちがいい。」と感じたり、北海道の自然
の中で生活すること、自然の大切さを体験
し、自然の大切さを感じる事ができました。

たくさんの人達にささえられて、今の私が
います。目には見えないうけど、心と心のつなが
りには、やさしく感じます。これから、私が
大きくなっても、この体験をわすれないで、
人を助けられる、やさしい気持ちを持ちぬし
になりたいと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 高橋 権 年齢 9 歳 職業・学校名 白河市立白河第三小学校

2011年3月11日、その時ぼくはよち
 園の年少組でした。

3月10日、ぼくはあせいけいホムといっ
 しょうじょうで救急車で運ばれて病院で点
 きをして、終ると帰りました。

3月11日は、よち園のカレーパーティー
 でどうしても行きたくて、前の日のこともあ
 たので、カレーだけを食べに行。て早めに早
 退して、おうちでみんなを休んでいた時
 でした。「グラグラ」とゆれて「何だろう？」と思っ
 た。大きないし人でした。「だいじょうぶかあ」と
 お父さんの声、「うん」とぼくたち。

ぼくのうちは、台所の棚の物が落ちて、電
 気も水も止まっちゃったからおじいちゃん
 ちにんを来ました。

それから5年がたつて、まだかせつ往來
 した人かいる人たちがいます。どうにかして
 みんなあったかいお家で安心して生活できる
 ようになつてほしいと思います。大人も子ど
 もも、みんな元気に楽しく生きてほしいです。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 草野 月那 年齢 9 歳 職業・学校名 白河市立白河第三小学校

あ	た	し	は	よ	う	ち	え	ん	の	こ	ろ	に	地	し	ん	を	たい			
けん	し	ま	し	た	。	寒	い	中	園	庭	に	ひ	な	ん	し	も	う	が		
に	く	る	ま	よ	う	て	い	ま	し	た	。	ひ	な	ん	し	て	い	る	時	に
は	な	い	て	い	る	人	も	い	ま	し	た	。	さ	い	し	よ	は	ひ	。	
く	り	し	ま	し	た	。	だ	け	心	ど	ん	ど	ん	に	お	く	な	り	ま	
し	た	。	家	に	帰	っ	た	ら	フ	ラ	イ	パ	ン	な	ど	い	ろ	い	ろ	
な	も	の	が	ち	ら	か	。	て	い	て	足	の	ふ	み	場	が	あ	り	ま	
せ	ん	で	し	た	。	か	た	ず	け	る	の	に	何	時	間	も	か	が	り	
ま	し	た	。	ニ	ュ	ー	ス	の	テ	レ	ビ	を	み	て	い	る	と	つ	波	
つ	波	と	ど	て	き	て	何	が	お	こ	。	た	の	こ	と	ひ	く	り	。	
し	ま	し	た	。	テ	レ	ビ	で	の	え	い	ぞ	う	で	つ	波	は	人	が	
家	の	み	こ	ん	で	い	。	た	の	こ	に	お	い	な	あ	と	思	い	。	
ま	し	た	。	つ	波	を	た	い	けん	し	た	人	た	ち	は	つ	ら	か	。	
っ	た	ん	だ	。	か	お	い	そ	う	だ	と	ず	っ	と	想	い	ま	し	た	。
あ	ね	か	ら	5	年	た	ち	ま	ま	が	大	し	ん	さ	い	の	こ	と	は	。
せ	っ	た	い	お	も	を	ま	せ	ん	。	今	後	も	つ	波	や	地	し	ん	。
が	こ	な	い	よ	う	に	お	か	っ	て	い	ま	す	。						

氏名 松崎元輝 年齢 11歳 職業・学校名 白河市立白河第三小学校

ぼくは、昨年の夏休みにしん災の復興につ
 いてを調査するという14泊15日のプロジェクト
 をしました。しん災復興の外にも、テント
 泊やなす連山登山や自然を生かした遊びなど
 もしましたが、しん災復興の事では、浪江町
 の放しと線がたくごんある所に行きそこで
 見た物などを参考にして、浪江町の人達にプ
 レゼンテーションもする事もしました。
 そこで見たのは、たれもない家のまわり
 に、草がたくさ人はえていたり、レンガがた
 くさん落ちていたり、ボロボロの店などがい
 っぱいあって、すごくさみしい所でした。
 浪江町の人達から話を聞くと、すごく家に
 もどりたいという人ともうあきらめるとい
 う人が半分くらいと言っていました。
 その経験からぼくは、津波で死んでしま
 った人や仮説住たくに住んでいる人達のため
 にせいのよい生きたいと思いました。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

ぼくは、東日本大震災が起きたとき、保育園
 園にいました。年長生、たほく達は先生に紙
 しぼいを読んでもらう、ていました。すると、
 先生のけい帯電話が急に鳴り出して、先生が
 それを止めようとしたら、とても大きな地震
 がきました。先生がとてもおせ、それのこと
 を今でも覚えていません。
 「机の下にかくれていてね。」
 と先生に言われ、すぐにかくれました。保育園
 園では、けかをした人もなく、何も落ちたり
 こわれたりしなくて良かったです。
 そして、むかえに来たお母さんと一緒に家
 に帰ると、家の中はかや物かたくさん落ちて
 いて、二階には行くことができませんでした。
 た。それを見て、とてもひ、くりしました。
 ぼくの周りはこのようが様子でしたか、も
 と大変だ、た人がたくさんいました。原子
 力発電所の事故もあり、福島県では今も苦し
 んでいる人がいます。その人達のためにも、
 福島のいい所を伝えていきたいです。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

匿名希望

わたしはテレビでつらつらと見るじしんを見て、こんなことがおきたらどうしようとおもいました。どうしてかといふと、大じしんがおきたらつなみなどがおきてしまうことがあがるからです。ほかには、かじとかがおきてしまうからです。または、たいへんなときは、山がちかくにある人は、山がじがおきてしまうかもしれません。ほかに、つなみのおきたいへんだ。たら山にのぼってつなみが、山まで水がくるかもしれません。小さいじしんでも、もしかするとなにかがおきてかじやつなみがもしかするとおこるかもしれません。中くらいのじしんでも大じしんと小さいじしんとおなじつなみやかじがおきるかもしれません。または、中くらいのじしんと大じしんでは、いえの中のものなどがあちまわりあたりにぶつかってたりします。それが小さいじしんでもたぶん大じしん、中くらいのじしんとおなじつなみやかじがおきるかもしれません。そしてじしんがおきたらうくえの下にかくれよう。

(20文字 × 20行)

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 滝川 莉奈 年齢 8歳 職業・学校名 石川小

わたしは東日本大震災のときまだはいくし
 よのころでした。わたしは、そのときわか
 ったのですが、わたしは、すぐに中国について
 「ほっと」しました。わたしは、中国につい
 たときに、「みんなだいじょうぶかな」とそ
 う心の中でおもいました。家に帰ると、あま
 りこわれた物はなく、思っていたよりもその
 ままでよかったです。東日本大震災では、ほ
 とんどの人がなくなりました。そのことを知
 ったとき心がざあんとになりました。「それは、
 また、こういう日がある。」と思っただけで
 す。わたしは、東日本大震災のつらさとしら
 せをいまでもかんじています。わたしは、東
 日本大震災のような日がないようにねんじて
 います。わたしのすむしも矢づくりは、森に
 かこまぬ安心感でしたが、もし森じゃなければ
 どうなっていたのかなと思いました。わたし
 は、みなさんがなくならないように人びとを
 大切にしたいと思っています。そしてわたし
 はいつもいい日がつづくといいと思います。

地しん…あのしんさいをたいけんするまで

地しんとりうものがよくあからなかつた。

あの日は昼寝をしていて、とつぜんの大きな

ゆれにびっくりにして、お母さんにとびついた。

お母さんはおなかが大きくて大へんなのい

ほくをだ。そして、家の外までいげてくれた。

それからすぐに妹が生まれた。こんなに大へ

んなことがおきている中で生まれてきた妹は

きぼうの光だ。たと、お母さんは言っていた。

じしんの年月と妹の年数は同じだ。家ぞく

にと、これもあすれらおないへいせいの23年3月。

3月11日はせ、たいにおすれてはいけないう日。

たぐさトの人がなくな、てしまつてかなじい

けれど、ほくたちは前にむかつてすすまなけ

ればいけないと思う。

ふくしまけんがもつと元気になるようにお

うねんしていきたい。

フレ-フレ-ふくしまけん

がトばれがんばれふくしまけん

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 えんどうあずさ 年齢 8歳 職業・学校名 石川小 学 木 交

あたしがうさいのころに大きいいしんがあ
 ったあは、おじいちゃんにだっこさね外
 ににげたのをまだおぼえています。おかあさ
 んは、しごとにいっていでそこでも電気がビ
 ンビンとなったり、たらの本がぜんぶおちて
 かえり道どうろにビビが入ってちどかたり
 ねどおかあさんにさきました。それから毎日
 もいしんがつづいてあは、こわくてまた
 いしんがおきるかとも思ってたねおまもりの
 した。いしんの音は、すごく大きくて、じゆ
 んがなびいているようでした。そのあとおんは
 ついともあつてあそびところが家の中だけで
 外でおもいでさりあそびたいなと思ひました。
 まかまこうじょうせんのけんさをするほど
 おと友になつてからけんはつかいしんはいで
 ず。あは、大きいいしんをけんした
 り、けんはつて外であそべるようになったり、こ
 うじょうせんのけんをしたりしたのがさ
 になつて4年もまえのことまだおぼえて
 います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 木戸 望乃実 年齢 7 歳 職業 学校名 石川小学校

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、
 ごおり山にすんでいます。でも、本当のお家
 はかつらお村にあります。ふくしまだい一原
 ぱつじこがおきて、かつらお村は、せん村ひ
 なんになりました。でも、家にはムックとい
 うおじいちゃん犬がいました。ひなんじよに
 犬をつれていくことはできません。そして、
 おじいちゃんは、二千頭ものうしにごはんを
 あげなくてははいけませんでした。村のほとん
 どの人がひなんする中、おじいちゃんとおば
 あちゃんは村にのころしかありませんでした。
 この後、うしは出、かすることができ、ムッ
 クは、いあきの親せきの家にあずけられまし
 た。ムックはひなんしてから、ちゃ色の毛が、
 白くなってしまったそうです。心がきづつい
 てしまったのだと思うと、とてもかわいそう
 だと思いました。ムックはおとし天国へ行
 てしまいましたが、しんさいの時、犬やうしは
 どこへ行けばよいのでしょうか。一しよに
 ひなんできればよいなと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 カ丸カノん 年齢 7 歳 職業・学校名 石川小学校

東日本大しんさいの時はわたしがうさいの
 時だ、たのであまりよくおぼえていません。
 けどおぼあちゃんとはしってにげたことは
 おぼえています。お父さんがはげしくごとか
 ら帰ってきたり、お母さんがしごとかから帰って
 こなかったりいつもとちがう日でした。

それから、すこししてぼうしゃのうがたく
 さんになって、人間の体に悪いえいきょうが
 あるからと外であそぶことができない日がつ
 つまじった。公園などにも行けなかったの
 で、私は今をもうぐであそぶのがにかてです。
 海水浴にも行、たことがありません。ペッ
 キッズこおり山には、たくさん行きました。
 私の家からはとおいのも、と近くにあると
 いいと思います。

東日本大しんさいではたくさんのおの命が
 うはわれてしまったのでもうにとしんさい
 はおきてほしくないと思います。

「東日本大震災の体験談と復興への想い」応募用紙

氏名 佐藤 真由 年齢 8 歳 職業・学校名 石川小学校

地しんがおきた時、わたしは三さいでした。

大きな音がして、とつせんぐらぐらとゆれた

し、わたしはこわくな。て家にいたお母さん

とお姉ちゃんも三人でだき合いました。

地しんは止まらずその日は何でも地しんが

つづきました。とてもこわかったです。これ

からどうなるのかしんばいにな。て、会社に

いるお父さんはだいじょうぶかなと思いました

た。

わたしの家はこわれなくて、電気、ガス、

水道などもいつも通りつかえたので、よか

たです。でもテレビを見ると、家がたおれた

り、つなみがおきたりしていたので、おどろ

きました。

今は、地しんの時とくらべて、あん心して

なだちとまどしています。

このまま、あんぜんにくらせた方がいいなと

思います。